

# 子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

## 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Weight-loss behaviors before pregnancy associate with increased risk of postpartum depression from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊娠前の減量行動が産後うつに及ぼす影響:エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名:鳥取ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名:Scientific Reports

年: 2023 DOI: 10.1038/s41598-023-34547-4

筆頭著者名:谷口咲希

所属 UC 名:鳥取ユニットセンター

目的:

一般女性に対して減量行動とうつ病との関連は報告されているが、妊娠前の減量行動と産後うつについては検討されていない。そこで、本研究ではエコチル調査のデータを用いて、妊娠前の減量行動と産後うつとの関連について調査した。

方法:

対象はエコチル調査に参加し、選択基準に合致した 62,060 名の妊婦である。妊娠 1 年前の減量行動を独立変数、生後 1 か月時点のエジンバラ産後うつ質問票(抑うつ:9 点以上)を従属変数としてロジスティック回帰分析を行った。さらに、不健康な減量行動指数を計算し、その指数とのエジンバラ産後うつ質問票との関連をロジスティック回帰分析により検討した。

結果:

妊娠前に少なくとも 1 つ以上の減量行動をとった女性は、減量行動をとらなかった女性に比べて、産後うつリスク増加がみられた(心理的苦痛のない女性:調整済みオッズ比 1.318[1.246-1.394])。極端に不健康な減量方法(食後の嘔吐、喫煙、やせ薬の使用)の使用は、各減量方法を使用しない場合と比較して産後うつとの関連がみられた。また、減量行動と産後うつとの関連は、妊娠前の BMI によって異なった。体重が正常範囲内(8.5<=BMI<25)の女性では、減量法の使用度合いを示す減量法スコアが産後うつと関連していた。

考察(研究の限界を含める):

本研究の結果から、妊娠前の減量行動が産後うつと関連があることが示唆された。特に、妊娠前の BMI によって、産後うつに与える減量行動の影響が異なることが明らかとなった。この結果は肥満者の減量行動を否定するものではないが、標準体型およびやせ型の女性における過度な減量行動は産後うつに影響を与える可能性があることが示唆された。研究の限界としては、減量行動を行ったかどうかのみ評価しており、その頻度や強度が不明であること、思い出しバイアスが存在すること、摂食障害の有無ややせ願望について完全に調査できていないことが挙げられる。

結論:

標準体型およびやせ型の日本人女性において、妊娠前の減量行動が産後うつと関連があることが示唆された。妊娠を計画している日本人女性に対して、減量行動とメンタルヘルスの関連について周知していくことが重要である。